

# 弥生文化博物館の試み

正岡大実

## 大阪府立弥生文化博物館

大阪府立弥生文化博物館（以下：弥生博）は平成3年2月に開館し、昨年2月に創立20周年を迎えた。この間、弥生博では平成18年度の指定管理者への移行など、幾つかの節目があったが、全国唯一の弥生文化を専門とする博物館として大阪和泉の地に佇んでいる。

本稿では、ここ数年の弥生博の取り組みのうち幾つかを紹介し、現在の博物館の成果と課題をみていくこととしたい。

弥生博は、和泉市と泉大津市にまたがる池上曾根遺跡に隣接するサイトミュージアムとしての性格と、弥生時代を専門にその文化の特質を明らかにするという目的のもとに創立されている。博物館の設立委員会に名を連ねた佐原真氏の信条でもあった「考古学を分かりやすく」という理念は、以後の弥生博の取り組みに当たって、大きな位置を占めてきた。

館長には、池上曾根遺跡の発掘調査において主導的な立場にあった金関恕が就任。以後現在に至るまで、その体制で運営されている。



写真1 大阪府立弥生文化博物館

## 博物館の特色

弥生博は20年前に創立された博物館であるが、当時としては斬新な取り組みを続けてきたユニークな博物館としても知られる。その特色はいかなるものか、ここで概観しておこう。

弥生博には大きく分けて3つの展示スペースがある。それぞれの部屋は、テーマごとに弥生文化をみる「第1展示室」、隣接する池上曾根遺跡を紹介する「第2展示室」、年間4～6回程度の企画展示を行う「特別展示室」の3室から構成されている。

特別展示室を除くこれらの常設展示室内では、弥生博の特色のひとつ「オープン展示」を行っている。これは、館の所蔵品やレプリカなどを中心に、可能な限りの多角度から資料を観察することができるよう、ガラスやアクリルなどのケースに収めない露出型の展示を行うものである。観覧者と展示物との距離を極力なくすというアプローチは「考古学を分かりやすく」の一つの在り方と言えるだろう。



写真2 展示室内写真OKの標示

展示のもうひとつの特色は、館内の写真撮影についても表れている。開館当初は撮影不可であったものの、現在は常設展示室について常時写真撮影を許可しているほか、企画展示については可能な限り写真撮影を可能とし、来館者ニーズに応えることで、好評を博している。

このほか、弥生博独自の催しとして、開館当初から行われている「弥生ミュージアムコンサート」がある。この催しは、現在では年間20回程度実施しており、事業の継続的な施行によって、近年では出演者も多様化しており、様々なジャンルの演奏を楽しめる企画となっている。



写真3 新型展示補助具の導入

このように展示・企画の面でユニークな側面を持つ弥生博だが、創立後一定の期間を経過したこともあり、入館者数の減少傾向が一時顕著であった。そこで、これを解消するために行われている、近年の弥生博の取り組みを次に紹介したい。

### 近年の取り組み

弥生博で近年特に力を入れている取り組みが、「でかける博物館事業」である。「でかける博物館事業」とは、博物館の事業を積極的に博物館の外部で行い、博物館の存在をより一層多くの方に知ってもらうための取り組みである。

博物館の来館者ニーズのうち大部分は、もちろん博物館の主たる業務である展示にある。もちろん展示に際しては、最新型電子機器の導入や能動的に働きかけることのできる仕組みを導入して、展示への理解を容易にする取り組みを継続的に行っている。しかしながら、子どもを含む幅広い層に対して、来館の動機を訴求するためには、弥生博の展示内容はややもすると専門的にすぎる傾向もある。それが「大阪府立弥生文化博物館」という存在のアピールに際し、わずかながらミスマッチを生じさせている側面は否めない。こうした齟齬を解消する手段として「でかける博物館事業」の展開は、弥生博にとって有効な解消法であった。

主要な出張先は、学校・他博物館施設・各種文化イベントなど。近年では、各種企業の催すイベントに参加する機会も増えてきている。こうした普及・啓発事業は、博物館の主たる業務の一つであるが、弥生博では、設立当初から学校教育のエキスパートを館員に迎え、普及・啓発にも大きく力を注いできた。

昨今では、教育委員会を通じた積極的な利用の促進案内と出前授業の積極的な営業活動によって、こうした取り組みの認知度も高まり、平成23年度には5年前に比して5倍近い実施回数に達している。

こうした学校教育の中でくみこまれた博学連携事業の中で、関心をもってくれた児童に対する次のアクションとして、現在弥生博では、「子どもと一っしょに博物館に行こう」と題したキャンペーンを行っている。

これは、関連した学校に「持ち帰りプリント」として、各家庭に持って帰ってもらい、プリント持参の方は入館料を無料とするものである。出前授業における体験型授業の興奮そのままに、「入館無料」というアドバンテージを打ち出すことで、一定の効果を発揮している。



写真4 出前授業のひとつ

**保護者のみなさまへ**  
この紙を受付にお渡しいただくと  
無料でご入館いただけます  
(有効期限 2012年3月末日)

子どもたちが見学した当館に、子どもたちの復習をかねてご来館ください。右記の体験学習活動や特別展、ミュージアムコンサートなど、いろいろな催しを行っています。

**催しものご案内**

**春日社展覧**  
4月1日(金)～5月6日(日)  
制作展 いずみ

**ひまわり展**  
5月21日(土)～7月3日(日)  
河内のムラの物語  
一池島・種万寺遺跡の3500年

**ひまわり展**  
7月16日(土)～9月11日(日)  
貴顕をもたらす響を解読

**ひまわり展**  
9月29日(金祝)～11月23日(日)  
弥生時代の始まり  
土井ヶ浜遺跡と菅原清澄の遺跡

**親子イベント**  
12月3日(土)～1月29日(日)  
子供の成長  
加藤恒忠が残した絵葉書  
一喝漢を生きた外交官の足跡

**親子イベント**  
2月4日(土)～3月20日(火祝)  
とんぼ玉100人展  
「ガラスのなかの夢」

大阪府立弥生文化博物館  
Museum of Yayoi Culture

子どもと一っしょに博物館へ行こう

**参加費無料！  
の体験学習**

毎月3上旬日曜日と7月アートの日  
大塚のくらし展  
「あへんいつよに争宮高」2012  
「弥生のまつり」 歴史・面白体験！  
「弥生の石器体験！」  
本物のサヌカイノをさわろう！  
「掘場1むかしの火おこし」  
ひまわり・まいざりて火をおこそう！  
いずれも年鑑2冊から3冊30分まで  
詳しい日程・内容はホームページをご覧ください

例年2 第4土曜日は  
「チャレンジ！土器ハッセル」

ただし、他の行事の都合で中止になる場合があります。  
午後1時から4時まで  
詳しい日程はお問い合わせ下さい

〒594-0143 大阪府堺市東区4丁目5番21  
TEL:073-46-2162  
http://www.yayoi-city.or.jp/

写真5 学校への配布資料

### おわりに

以上、弥生博の取り組みをかいつまんでみてきた。それらはいずれも来館者にとって親しみのある博物館であるための模索ということに尽きるだろう。とはいえ、そうした取り組みも「博物館の存在自体を知らない」もしくは「知っているが行ったことがない」という人への「博物館へ行ってみよう」とする動機を持ってもらってこそのこと。こうしたコンセプトのもとに行われてきた「出かける博物館」などの事業は、博物館の存在を知ってもらう上で、一定の役割を果たしてきたといってよい。今後はさらに積極的なアウトリーチ活動を行っていくことが求められていると考えている。

大阪府立弥生文化博物館 学芸員